

令和５年度 第２回吹田市企画会議概要

日 時：令和５年７月５日（水）午後０時４５分～午後１時２０分

場 所：吹田市役所 高層棟３階 災害対策本部会議室

出席者：後藤市長、春藤副市長、辰谷副市長、小西総務部長、今峰行政経営部長、
真壁土木部長、柳瀬下水道部長

所 管：【都市計画部（計画調整室）】

清水部長、木村室長、花谷参事

【土木部（地域整備推進室）】

梶崎理事、勝亦総括参事、正本参事、大野主査

案 件	上の川周辺整備事業の対象範囲の拡張検討について
担当及び関連部局	都市計画部（計画調整室）、土木部（地域整備推進室）
【案件概要】 現在、事業実施中の上の川周辺整備事業について、上の川を暗渠化することにより創出される空間を活用し整備する遊歩道の延伸及び踏切拡幅等、対象範囲を拡張する方向性を確認するもの。	
【所管部の考え方】 現在、府道のうち特に歩行空間の狭小な上ノ川橋から蓮華寺橋までの約300m区間（以下「事業中区間」という。）及び花壇踏切（円山町１号橋）について、上の川を暗渠化し創出された上部空間を利用したまちづくりを府市連携により実施中である。 しかし、下記①、②のとおり、事業中区間以外の区域においても解決すべき課題がある。 ① 事業中区間と花壇踏切事業実施箇所の間部分である蓮華寺橋から花壇踏切（円山町１号橋）までの約350mの区間（以下「延伸検討区間」という。） 府道について十分な歩行空間が確保されておらず、第２次みどりの基本計画の方針である、みどり豊かなネットワークとしては機能が脆弱である。 ② 並行する阪急電鉄株式会社の踏切部分である大学踏切（円山町２号橋） 幅員不足等の地域課題がある。 よって、上記①及び②を事業拡張区域とし、遊歩道の延伸及び踏切拡幅等について、本市が主体となって検討を進めようとするもの。	
【質疑概要】 質問： 参考資料１について、事業中区間は府道の歩道も拡幅して広くなるようだが、延伸検討区間については、府道の歩道が拡幅されないように見えるのはなぜか。 回答： 事業中区間は、歩行空間が特に狭小であり、遊歩道整備に併せて拡幅する必要があったため、府市連携により府道整備を実施している。一方、延伸検討区間については、一定の歩行空間が確保されているため、大阪府として府内全体	

で見た場合、整備の優先度が低いと判断されている。今後は、延伸検討区間についても大阪府と連携できるよう引き続き協議していく。

質問： 事業中区間及び延伸検討区間の工事完成後、河川部分の定期的な点検や土砂の撤去等、維持管理は大阪府又は本市のどちらが管理することになるのか。

回答： 本市の下水道部が日常点検を行うことになる。ただし、構造に関わる点検や補修等は、河川管理者である大阪府の役割となるため、工事完了までに役割分担を含めた維持管理協定を締結する予定である。また、下水道部により適正な日常管理がなされるよう、ランニングコストに関しても整理する。

質問： 阪急豊津駅から阪急関大前駅までの賑わいの創出とは、どのようなものを考えているか。

回答： ベンチの設置等、人々が憩える空間の整備や、学生の通学路としての利用も想定している。

意見： 単に通行量が増えるということだけが、賑わいの創出というわけではない。景観面にも配慮し、高質な空間となるよう工夫してほしい。また、現在阪急関大前駅は、ホームが狭く、ラッシュ時は危険な状態であるため、阪急豊津駅からの遊歩道を利用してもらうことで、混雑緩和にもつながると考える。

要望： 市民からは、事業中区間の整備を契機に、その先の延伸検討区間の整備についての期待感も高まると考えられる。大阪府との連携の可能性も探りながら、取組を進めてほしい。また、財源については、交付金等の活用も検討しながら進めていただきたい。

指示： この事業の主な効果は、「歩行者の安全性の確保」、「みどりの空間の創出」及び「災害時対応」であると考ええる。特に「歩行者の安全性の確保」は、喫緊の課題であり、関係者にはこの重要性をしっかりと説明した上で、協議を進めること。

【結果】

本件の方向性については、承認された。会議で出た意見、指示を踏まえて取組を進めること。